

ソノ ヨノ リヒ

自らを由とする
ひとたちへ贈る
極私的な旅の記

ソノひびヨリ
2024・25年 第十六号 <冬・春>

目次

「至して候、新つて候」 天皇御陵踏破の旅 追尊天皇編

前和カミタノスタルジ「家のしやまげモノ」

世界地図旅行 南アフリカ共和国

ソノひびヨリ 島根県隠岐島「後鳥羽天皇、後醍醐天皇、島流の地に流れ着く」

「合」前「いちごきひと」 ― 一七献目から一二五献目まで

ソノひびヨリ 香川県観音寺市「奇跡を呼び寄せた、天空の鳥居・高屋神社に登山？」

プチモブ動物園旅行「してみたNO.」 天王寺動物園「クロくなった、シロクマ？」



WEB <https://sonohibiyori.net/>
<https://www.instagram.com/sonohibiyori>
<https://twitter.com/sonohibiyori>

発行元
たびたびまたたびプロジェクト
〒530-0041 大阪市北区天神橋一丁目18-27
Tel.06-6351-3474 Fax 06-6351-9364
発行日 2024年1月5日（季刊）

企画 たびたびまたたびプロジェクト編集委員会
制作 株式会社アートグローバルファン

ソノヒヨリ

Arriving on
the pearl island
2023
Nov. 20-23 day

第三四話 島根県隠岐島

「後鳥羽天皇、後醍醐天皇、島流の地に流れ着く」

流し流され、流れ流れて、隠岐島にきた。

八二代・後鳥羽天皇、九六代・後醍醐天皇、両天皇の足跡を訪ねるため島根県境港市にある「隠岐汽船境港フェリーターミナル」にやってきた。「承久の乱」で鎌倉幕府執権「北条義時」に負け、隠岐に配流され都に居る事なく隠岐で崩御した「後鳥羽天皇」。方や、「後醍醐天皇」は鎌倉幕府に「正中の変」「元弘の乱」と二度もクーデターを仕掛け、いずれも失敗。挙げ句の果て山中で捕まり、隠岐に配流となった。けれど、この方は討幕の思いを諦めず、なんと！隠岐より逃亡！？ いやいや、その後、天皇に返り咲いたのだから「脱出」と言うのだろうか（笑）。でも、うまくはいかず味方だったはずの「足利尊氏」に京から追い出され、奈良県・吉野に逃れた。そして、やけくそ気味に「南朝」を開いた・・・、これより朝廷混乱期の「南北朝時代」が始まったのです、なんだか人間味がある面白い天皇に興味がかかれた。

本日は、両天皇が隠岐に渡る前に滞在した、対岸の島根半島東端にある「美保関」で泊まることにして、明日朝、隠岐に渡ることにした。両天皇の御心を感じてみようではないか。



美保関の「石畳通り」、風情がありタイムスリップしたような気分になる。



新港を見守るように鎮座している「三穂神社」。

参拝を終えて、海士町の中心部まで来た道に戻ることにする、いよいよ天候が怪しくなってきた。途中、絶景・撮影スポットを探し車を走らせると「カルデラ展望所（日須賀上）」なる標識を発見。車を止め調べれば、眼下に広がる海は、島前・三島の中心部で火口だそう。今、立っている場所は外輪山と言っているらしい。なるほど、だから「カルデラ展望所」なのか。雲が湧いているが記念に一枚だけ撮ることにする、これでも一応カメラマンだからだ。

海士町の中心部は「後鳥羽天皇」の足跡の中心部でもある

「カルデラ展望所」より約一〇分ほどで町の中心部にやってきた。目的地は、島に來られ一九年間、無念のまま崩御された「後鳥羽天皇」を島民たちが火葬した場所と伝えられている「火葬塚」に参拝することだ。県道三二七線沿いに鳥居を発見、その横に「後鳥羽天皇火葬塚」の入り口があった、いつもの宮内庁の表示板と共に。

車移動は無理と判断して、鳥居の向かいの駐車場に車を置いて徒歩に切り替えた（駐車場は無料でした）。林の中に続く参道を見て「こりゃ、ちょっと歩くな」と、「御陵巡り」で養われた感が働いたのだが、意外や意外一〇〇mほどで「

晴天の船出口日、境港フェリーターミナルから隠岐へ

朝、九時の境港発隠岐行き「おき」に乗船しようとしたが、昨晩の深酒で一足違いで出港してしまつた・・・。急ぐ旅でもあるまいと言いつつ、次発「しらしま」で向かうことになった。出港の一四時まで寝て時間を潰すことにした、まだ体内にアルコールが幾分残っているから（笑）。



朝霞の島影が見えてきた。

定刻に船は出港。一七時五分、予定より五分遅れで島前・西ノ島の別府港に到着。船でもよく眠れた、今晩もよく呑めるはずだと思いつつホテルへ向かった。この旅の宿になる「ホテル隠岐」は、港の前の好立地条件だ、もう寝坊しても大丈夫！ 走れば一分で港に着く、ただ走れるかが問題だが。船を一本遅れさせてため日も傾き、本日の行動はここまで。明日は早朝からの行動を誓いながらも、しっかりと晩酌をする吾輩なので。

隠岐の旅三日目の行程は、対岸の「中ノ島・海士町」に渡り日曜りの散策だ。朝食を取り終え、空を眺めれば雲の流れが早く、昨日のように晴天とはいかないと覚悟をきめた。何の覚悟が分からないが・・・（笑）。

ホテルを出れば歩いて二分の船着場より、中ノ島・菱浦港に渡る定期船「隠岐観光・いそかぜ」に大人・片道三〇〇円で乗船、約七分ほどの「あつ」という間の船旅が楽しめる。本当に瞬く間もなく菱浦の入江が見えてくる、入江付近に近代的なラグジュアリーホテルが立っている。

余談だが、「動物園探訪」の「やまんかたヌキ」さんが泊まったことがあるらしく「とてもハイセンスな良いホテルですよ」と言っていた。吾輩のようなボンコツ還暦越えには無縁のホテルだ、「ホテル隠岐」がちょうどいいのだ（負け惜しみか・・・）。

後鳥羽天皇火葬塚「した！ 吾輩の勘も大した事がない、もうろくしてきてたのだから（苦笑）。そんな不安な雑念を祓い、「火葬塚」に向かい心を込めて参拝をした。

この「後鳥羽天皇火葬塚」の奥に、天皇がお住まいになられたと伝わる「行在所跡（あんざいしよ）」があるので向かうことにした。行在所は元「源福寺」という寺だったようだが、寂しい暮らしが偲ばれる。

「行在所跡」に向かう途中には、天皇の島ぐらしの住しさを自ら癒し歌った歌が刻まれた歌碑が多く立っている。「蛙鳴く、刈田の池の、夕だたみ 間かましものは、松風の音」寂しさが伝わってくる歌だ。石段を登れば広い平地が現れた、ここで京を夢見て一九年の月日を過ごし崩御されたのか・・・。黄葉が舞う中、その御心を思い浮かべたが、ボンコツな心には何一つ感じる事が出来ず、この場をあとに「隠岐神社」に向かうことにした。

「隠岐神社」に参拝するために駐車場のあった「二の鳥居」に戻った、この穢れ爛れた心身を浄化するために。鳥居横の説明文を読み驚いたのが、この神社は比較的新しい神社なのだ。一九三九年（昭和十四年）に「後鳥羽天皇」生誕七〇〇



白い玉砂利が引き詰められた「後鳥羽天皇火葬塚」。美しく整備されている。島の人たちが大切にしていることが窺える。

島前・中ノ島で「後鳥羽天皇」の足跡をめぐる

菱浦港に八時三十分到着、事前予約していたレンタカーで「中ノ島」の南側、「後鳥羽天皇」着船の地「崎」に鎮座する「三種神社」に向かった。約一〇km、二〇分で到着。

ここ「着船の地・崎」は、本土・美保関より荒れ狂う海を渡り「後鳥羽天皇」が上陸をされた港。島に上陸後、天皇はその荒れ狂う海に向かい「われこそは、新島守よおきのうみよ、あらかみ風、こころして吹け」とお詠みになったと伝えられている。さすがは天皇の御製、ご自分のことを「新しき島の神」と仰しやり、波や風の自然に対しても威厳を保とうとしている。虚勢を張りたくなるほど、恐ろしい船旅だったんだろう、気持ちわかりますよ。

「崎港」の小高い鼻先には、隠岐での第一夜を明かした「三種神社」が鎮座している。三つの鳥居をくぐり拜殿へ向かい、拜殿でこの旅の安全と空模様を祈る。少し雲が湧いてきている、雨が降らなければいいが・・・。



菱浦の入江に入れば、誰でも目に付くラグジュアリーホテル「ホテルEna」。



「ホテル隠岐」の外観。朝は部屋の窓から朝日を拝める。良い宿です！



隠岐の名産「隠岐馬刺し」をいただく、タテガミの酒が旨く酒が濃む。

年を記念して創建され、もちろん御神祭は「後鳥羽天皇」のお一方だけなのだ。そのことを知ると、なんとも立派な神社じゃないか。住しかつたであろう行在所と違い、荘厳な本殿にお住まいになれ、さぞお喜びだろう。ここで参拝も終えた、渡し船の時間には少し早いけれど港に戻ることにする。港にあった観光センター「キンニヤモニヤセンター」が気になり寄りたかったからだ、そこで晩酌の肴を見たかったのだ・・・。やはり心身共に穢れ爛れているな、吾輩は。買物も済まして乗船だ、マイホーム「ホテル隠岐」に帰ることにする。



「隠岐神社」本殿は御枝流の御本殿。



「隠岐神社」にひっそりと「行在所跡」がある。



港にある観光センター「キンニヤモニヤセンター」



早朝、「ホテル備後」より7分ほどの散歩で「後醍醐天皇」ゆかりの「黒木神社」へ



この湧から湧出されたと言われている。逆光で一枚。まあまあドラマティックに撮れた(自撮り目録)

京を夢見、閃々と過ごした「後醍醐天皇」の足跡を散策

最終日は「ホテル備後」のすぐ近く、「九六代・後醍醐天皇」の足跡を訪ねるのが目的だ。早朝、ホテルより歩いてすぐ、船着場・別府港の東側に鎮座する「黒木神社」に参拝する。ここは「後醍醐天皇」を御祭神した、「後醍醐天皇」ための神社であり、この周辺には天皇の足跡が点在して短時間で巡れる。「ホテル備後」は素晴らしい立地条件だ(笑)。ホテルより真っ直ぐに入江沿いを歩けば、白い鳥居が見えてくる。気持ちの良い朝の日差しが射し、鳥居が一層白く輝いている。鳥居の向こうには小高い丘、そこに鎮座している「黒木神社」、石段を少し上れば本殿に到着だ。本殿は思ったより小さく質素な佇まい。・・・。そりゃそりゃか、「後醍醐天皇」はこの場所(鳥)に二年しか居なかったのだからこんなものかと思ってしまう。



入江に立つ鳥居をくぐれば、本殿へ向かう石段。小さな本殿、拝所があった。

鳥で暮らした一年間は、京への帰還のみを虎視眈々と待ち続けた日々だったんだろう。「権力欲の塊なのか(笑)」と思いつつも、一応、拝殿に向かい参拝を終えた。この本殿より、さらに奥へ向かえば一年を過ごした御所跡「黒木御所跡」がある。表示に従い小道を登っていく、石段を上にはそれほど大きくはない柵囲みの空間があった。柵内には植樹記念の杭が打たれている、そこには「昭和六一年 皇太子殿下・皇太子妃殿下行啓記念」記されていた。言わずと知れた「平成上皇陛下」と「美智子上皇后陛下」の植樹記念碑だったので。・「南朝」の生みの親で、朝廷を混乱に陥れた張本人の「後醍醐天皇」配流の地にまで、行啓されているとは驚いた。さすがは「平成上皇・上皇后陛下」です、吾輩は頭を深く下げたのであった。もともと「後醍醐天皇」の鳥暮らしを知りたい貴兄には、「黒木神社」の敷地内には「伝承資料館・碧風館」があります、どうぞお立ち寄りください(入館料・大人三〇〇円)。吾輩は寄らず先へと進みます(笑)。

「木村家」の人々が「後醍醐天皇」を背負って峠を越え、美田の自宅にお連れになられたのだ。到着後、休憩を取るため腰掛けたのがこの目の前にある「御腰掛石」なのだ。・・・。他人におぶって貰い休憩とは、いやや人格を疑ってしまう(苦笑)。休みたいのは島民の方(絶句)。そんな身勝手な「後醍醐天皇」だが島民に人気があったとも記されている。・・・。本当かな?

そんなことを考え、脱出の地と伝わる「美田の港」を暫く眺めて、この「西ノ島」を後にする事にした。次なる島・島後島へ向かうため別府港へ戻ることにする。

的の前に到着。帰りの時間を伝え、ここ「開牛場」前で拾ってもらおう事にした。我ながら名案だ(島内のタクシ―は少ないので予約が安全)これで帰っても安心して散策ができる。タクシ―を降り、開牛場横に「隠岐国分寺」への参道がある。まっすぐ進めば「本殿」、その途中にある枝道に「もう一つ」の御所跡へと続く道だ。迷いなく枝道の御所跡へ進むと、これがどっつい枝道と思えば、それは立派な参道だった! 広い石畳に石灯籠まである、参道だけじゃない! 美しく整備された御所跡。今日朝に訪れた西ノ島・別府の「黒木御所跡」とは大きな差があるありさまだ。この差は「なぜ」なのか調べてみた、少し長くなるが語っておこう。



島後島・西郷港、なかなか立派な参道だ。

それは初めに、江戸時代、隠岐を納めていた「松江藩」の公文書で「後醍醐天皇」の行在所(御所)として西ノ島の「黒木御陵」を記されていたのだが。・・・。時代は明治に入り本土の歴史学者たちが「増鏡(南北朝時代の歴史物語の書)」に行在所(御所)は「海づらよりは少し入りたる国分寺と言ふ寺を、よろしき様に取り払いて、御座しまし所に定む」という記述が書かれておると言いつつ、また「太平記」には、「府(こう)の嶋と云所に、黒木の御所を作て皇居とす」と記されていた。即ち、「府の嶋」とは「国府のある島」という意味で、それはつまり島後島の「国分寺」に他ならないと発表したのだ! これにより「国分寺」説が有力となり、島後島の「国分寺」が「後醍醐天皇行在所跡」として国史跡に指定され整備されていった。西ノ島の「黒木御陵」との整備の差はその様なことからなのだ、納得だ。まあ、吾輩にとつて「真贋」は何方でも良い事なのだが(笑)。ただ、この整備された様を見ていたら、逆に西ノ島の方が歴史口マンは有ると思う。

ある意味で無機質な、広く整備された御所跡を歩いてみても余り心には響かないものだ。その時あるモノを発見した、「正面奥の玉城鎮守社に後醍醐天皇御尊像が祀られます」と書かれた地べた置き朽ち果てかけた板を、これは面白そう

きた道を戻り再び入江沿いの道路に出た。ここより歩いて二分ほどの「千福寺御所跡」に向かう。この「千福寺御所跡」も言わば天皇の住居跡の一つなのだ、いろんな場所に潜伏して島からの脱走を企てていたのだろうか。余談だが「千福寺」は明治の廃仏の折に廃寺となった。次に向かうのが、やはりすぐ横にある「三位局屋形跡」。配流のさいに天皇の側役は三人のみ、そのうちの一人がこの屋形跡で暮らしていた「三位局(阿野廉子)」だ。その跡は竹敷の中にあり、当時もこの様な有様だったろうと思われる。局お一人、寂しい日々を過ごしたのだろうか。・・・。だが、後々「三位局(阿野廉子)」は「九七代・後村上天皇」をお産みになり御生母となり、それは輝かしい人生を歩む事になるのだ。



本殿より少し歩けば「黒木御所跡」。『平成上皇・上皇后陛下』が行啓されていた。



参道を進めば、竹敷の中に「三位局屋形跡」。寂しいところだ。

さて、次は「後醍醐天皇」の隠岐脱出ルートを(時間がなくなり車移動にて)巡る事に。「黒木御所」の周りには多く見張り番がいたはず、その目を誤魔化すためには御所前の別府港からの逃亡を避け、峠を越えて山向こうの集落・美田を目指したのだ。吾輩もそのルートに乗って、一〇分ほどで美田にある天皇の足跡「後醍醐天皇・御腰掛石」前に到着した。その石の前で「後醍醐天皇」の脱走模様を吾輩は思いに耽る。「その昔、道も整備されていない峠を歩くのには、相当難儀しただろうに。・・・。都では奥が当たり前なのだから。」そんなことを考えながら、それは大違い! なんと、伝承によれば、島の旧家



民家の中に「後醍醐天皇・御腰掛石」の結核骨板が現れた!

なので向かう事にした。木立の中を数分進んだところに古びた社の「玉城鎮守社」が祀られていた。社の扉は閉まっていて、残念ながら外から御尊像が有るのか確認はできなかった。ただ、原生林の中を歩いていると、神道の原風景を感じることができた。

この後、「国分寺」の本堂も巡ったがあまり興味も持たず(京都在住の身、寺の建築物が新しく見えるのですよ)、時間には早い門前に向かった。暇を持て余していた所にボランティアガイドらしき同世代の男性を発見、ちよつと話しかけて「いけすな」質問をしてみる(笑)。その質問は「どちらが島が、本当の後醍醐天皇の御所があったと思えますか?」彼はこう答えた「どちらでもいいんですよ。島後は国史跡で、島前は県史跡。双方が少しでも潤えば(笑)」。吾輩は声に出し「こりゃ、一本取られたなあ」と、その返答に感銘した。彼にそのことを告げ、二人で笑った。そうしている間に送迎のタクシ―がきた、彼にお礼を伝え車に乗らされた。走り出した車窓より、島後の町並みを眺めながら、旅の終わりに清々しい気分になったことを感謝した。いい旅だった。



「隠岐国分寺」内の「玉城鎮守社」、原生林の中に鎮座してなかなか始になる。



① 参道を登れば、正面からの拝所がない・・・



② 不敬だが御陵前の畑の畔に降りて、正面からの撮影。



③ 「真弓岡陵」の近くに、もう一つの「草壁皇子」の陵墓「東明神古墳」。

百舌鳥・古市古墳群 勝手に世界遺産登録記念

還暦前、写真家の「写して候・寄って候」

天皇御陵踏破の旅

追尊天皇 編

写真取材 赤木賢二

五十路もなかばの頃、ふと考えた。
日本国とは何なのか、日本人とは何なのか。
その答えを探す為に、2600年を遡る時空の旅へ出た。
イデオロギーなど関係無い。ただ、
今そこに残る時間の集積を写してみたい。

岡宮（おかのみや）天皇陵

御名 草壁皇子 くさかへのみこ

生没年 西暦六六二年（天武天皇元年）～六八九年（持統天皇三年）

時代 飛鳥時代 続柄 天武天皇（父）持統天皇（母） 陵形 円墳

所在地 真弓岡陵 奈良県高市郡高取町佐田

最寄駅 近鉄吉野線「霊阪山」下車、約一、四km、徒歩約二〇分

「草壁皇子」は西暦六六二年、「大海人皇子（四〇代・天武天皇）」の第二皇子として誕生。六七一年に「三八代・天智天皇」が崩御すると、後継を辞退した「大海人皇子」と共に吉野へ下った。その後、「王中の乱」で勝利した「大海人皇子」は、飛鳥浄御原宮で即位し四〇代・天武天皇となる。その後、継者として「天武天皇」の皇后「鸕野讃良皇女（四一代・持統天皇）」の实子「草壁皇子」が、六八一年（天武天皇一〇年）に立太子した。六八六年、父「天武天皇」が病状につくと皇后（母）と共に大権を委任された。その年に父「天武天皇」が崩御するも、事実上皇位を継承していた「草壁皇子」だが、直ぐには即位をしなかった。これには「草壁皇子」が若かったとも言われているが、天武天皇崩御の直後に「草壁皇子」に次ぐ皇位継承権者とみなされていた「天津皇子」が謀反の罪で処刑されており、宮廷内の反感が「草壁皇子」の即位の障害となったものと思われる。六八六年（持統天皇三年）に「草壁皇子」は二七歳の若さでこの世を去った。そして時代が下って七五八年（天平宝字二年）に「四七代・淳仁天皇」から「岡宮天皇（岡宮御宇天皇）」の称号が贈られた。その御陵は、奈良県高市郡高取町の真弓丘陵と言われている。

崇道尽敬 (すどうじんきょう) **皇帝陵** 御名 舍人親王 とわりしんのう
 生没年 西暦六七六年 (天武天皇五年) ~ 七三五年 (天平七年)
 時代 飛鳥から奈良時代 続柄 天武天皇 (父) 淳仁天皇 (子) 陵形 方墳

所在地 黄金塚陵墓参考地 奈良県奈良市田中町
 最寄駅 JR桜井線「帯解」下車、約一、六km、徒歩約五分

「舍人親王」は西暦六七六年、「大海人皇子 (四〇代・天武天皇)」の第六皇子として誕生。「四七代・淳仁天皇」の父でもあり、「日本書紀」編修事業の総裁を務めたことでも知られる。西暦七三〇年 (養老四年) に「日本書紀」(紀三〇巻・系図一卷) を奏上した。その年に朝廷最大の實力者だった右大臣「藤原不比等」の薨去に伴って、「舍人親王」は朝廷の要職に就き、「新田部親王 (天武天皇の皇子) ・長屋王 (天智天皇と天武天皇の孫)」とともに皇親政權を樹立する。西暦七三五年 (天平七年) に薨去。その後、第七王子の「天炊王」が「四七代・淳仁天皇」に即位することにより、西暦七五九年 (天平宝字三年) 天皇の父として「崇道尽敬皇帝」の諡号を贈られた。その御陵は「延喜諸陵式」に墓所の記載がないが、宮内庁管理の「黄金塚陵墓参考地 (帯解黄金塚古墳)」とされている。だが二〇〇九年 (平成二一年) の発掘調査の結果、七世紀半頃「飛鳥時代」の築造と推定され、薨去した年代とは整合しないことが判明している。その他にも大和郡山市「松尾寺」の十三重塔や、京都市伏見区の「伏見稲荷大社」の地にあった「藤尾社」などが伝承墓として伝えられている。



① 過去に訪問した御陵と違い荒涼としたうら寂しい「黄金塚陵墓参考地」



③ 菰道の先に表示板が見える、ここが「黄金塚陵墓参考地」だ。 ② 県道187号線から竹藪が続く脇道を進む

春日宮 (かすがのみや) **天皇陵** 御名 志貴皇子 しきのみこ
 生没年 西暦六六八年 (?) ~ 七二六年 (霊龜二年)
 時代 飛鳥から奈良時代初期 続柄 天智天皇 (父) 光仁天皇 (子) 陵形 円墳

所在地 田原西陵 奈良県奈良市矢田原町
 最寄駅 近鉄「奈良」より奈良交通バス「田原御陵前」下車、約四五〇m、徒歩約五分

「志貴皇子 (春日宮天皇)」は、「三八代・天智天皇」の第七皇子として誕生した。「壬申の乱」を経て、皇統が「天智天皇系」から「天武天皇系」に移ったことで、皇位継承とは無縁の生涯を送る。政より和歌などの文化芸術に生きた人生だった。万葉集には「志貴皇子 (春日宮天皇)」の歌が六首も収録されている。

七二六年 (霊龜二年) に薨去。その後、約五〇年の歳月を経て七七〇年に「志貴皇子 (春日宮天皇)」の第六皇子「白壁王」が皇嗣に擁立され即位し「四九代・光仁天皇」となった。天皇の実父として「志貴皇子」は「春日宮天皇」の追尊を受けることとなった。その御陵は、奈良市矢田原町西山「田原西陵」東西約三八m、南北約四〇m、高さ約一〇mの円墳。



① 石垣に囲まれた参道を抜ければ、田畑に挟まれた参道になる。奈良らしい風景に思える。



③ 追尊天皇陵とは思えない立派な御陵だと思ふ。ただ、来にくいのが難点だ・・・ ② 駐車場のすぐ横に御陵への参道がある、さすがは「田原御陵前」駐車場だ。



① 美しく整備されている「崇道天皇陵」。御霊を鎮めるため、今日もきれいに清めているのだろうか。



③ 小さなお宮だが本殿が重要文化財だ。 ② JR「奈良」より約2km、崇道天皇社。



④ 早良親王の墓跡の案内表示があった。農道のような道を20mほど歩けば墓跡に着いた。



⑥ 近づいてみると御堂は荒れ放題・・・、不敬だがあまりの不気味さに寒気がした。 ⑤ 鳥居を抜け石段を上れば御堂が立っていた。あまり気持ちの良い場所ではない。

崇道 (すどう) **天皇陵** 御名 早良親王 さわらしんのう
 生没年 西暦七五〇年 (天平勝宝二年) ~ 七八五年 (延暦四年)
 時代 奈良時代 続柄 光仁天皇 (父) 桓武天皇 (兄) 陵形 円墳

所在地 八島陵 奈良県奈良市八島町

最寄駅 JR桜井線「帯解」下車、約一、七km、徒歩約五分

「崇道天皇」こと「早良親王」は、「四九代・光仁天皇」の皇子で「五〇代・桓武天皇」が同母兄である。その生い立ちは、天智天皇の孫「白壁王 (後の光仁天皇)」と母方の血筋も下級貴族の出とあり、帝はもちろん官人としての出世も望めなかった (この頃、皇統は天武天皇系で継承されていたため)。そのため一歳で東大寺へ出家する。七七〇年に父が「四九代・光仁天皇」として即位、その後七八一年には兄が「五〇代・桓武天皇」に即位する。この事により「早良親王」は還俗し、皇太子として立太子された。七八五年九月、長岡京の造営が進む中、その責任者である造長岡宮使「藤原種継」が暗殺された。その暗殺に「早良親王」の関与があるとみられ、事件より四日後には「乙訓寺」に幽閉された。親王は身の潔白を証明するため食を断ち、無実を訴え続けるが同年一〇月に「廃太子」となり淡路へ配流となった。その護送中、「早良親王」は絶食による衰弱にて現・大阪府守口市の高瀬神社付近「高瀬橋頭」死去したという。遺体はそのまま淡路へ運ばれ葬られた。その御陵は、奈良県奈良市八島町にある「八島陵」。親王から「崇道天皇」と追尊されたことより「崇道天皇陵」とも呼ばれる。御陵の形状は、遠目には方形墳のように見えるが「陵墓要覽」では円墳と分類されている。



第22回

「クロくなった、シロクマ？」 大阪市・天王寺動物園

住所 大阪府大阪市天王寺区茶臼山町1-108
開園時刻 午前9時30分～午後5時 (入園は午後4時まで)
敷地面積 11ヘクタール
休園日 毎週月曜日 (祝日の場合は翌日が休園日) 12月29～31日、1月1日
入園料 大人 500円 小・中学生 200円
駐車料 有料

「110周年を迎え、いろんなイベントや新展示場がリニューアル」

天王寺動物園、110周年おめでとうございます！ 今年には周年記念イベントが目白押し...
まず、新世界ゲートに入って目につくのが、リニューアルする「チンパンジー舎」...

「今回の来園の目的、その真相はシロクマ舎にある・笑」

「アシカワフ」を鑑賞中、後ろのシロクマ舎から「ドボーン〜!」「ドボーン〜!」と水に飛び込む音が聞こえてくる。
なるほど、分かってきました黒くなる原因が、もちろん、素人の考察ですが...

「お婿さん不足のシロクマ界!？」

先日、読売新聞(2月13日掲載記事)で「ホッキョクグマ春は遠く・伴侶探し難航」と衝撃的な記事を読みました。
そこには、グリーンランド・シオラバルク在住の「エスキモーになった日本人」で知られる大島育雄さん...
「地球温暖化で北極の氷の面積が減少したことで、生息域が狭まりここ近年で減少のスピードが高まって自然破壊の犠牲者と言われている。しかし、グリーンランド北部にかぎりホッキョクグマの生息頭数は確実に増えていると、地元民・イヌイットたちは語っている。」



ホウちゃん! んん〜、確かに毛色は黒いけど・・・



水の中では毛色の確認ができない、しばし静観です。



日があたり乾きだすと、みるみるシロクマに戻ります。



1 少し歩けば御陵内が見渡せた。不敬者だな(苦笑)。



2 何度も参拝にきた「月輪陵」拝所だ。



1 廬山寺境内にある「源氏庭」の奥に御陵へ。



2 不敬だが御陵の中を除くと慶光天皇陵以外に15墓。

父「二〇六代・正親町天皇」、子には「二〇七代・後陽成天皇」を持つ「陽光院太上天皇(誠仁親王)」。
また、「誠仁親王」は「信長」より献上された「二条新御所」と呼ばれた邸宅に居を構えていた。
「誠仁親王」と「信長」は蜜月な関係だったが、一五八二年(天正一〇年)、「本能寺の変」では「二条新御所」が襲撃され、危うく難を逃れ宮中に戻った。
「誠仁親王」の薨去後、遺児の「和仁親王」が同年に祖父「正親町天皇」の猶子とし皇位を譲られ「二〇七代・後陽成天皇」が誕生した。
「泉涌寺」内の「月輪陵」に葬られている。

「慶光天皇(閑院宮典仁親王)」は「二三代・東山天皇」の皇子の第三王子として生まれる、子には「二九代・光格天皇」を持つ追尊天皇。
「光格天皇」が即位し九年の一七八九年(寛政元年)に、父「典仁親王」の宮中での地位が大臣より低くすることを嘆き「太上天皇」の尊号を贈ろうとした。
「慶光天皇」の尊号を贈ろうとした。その旨を側近の公家衆より江戸幕府に伝えるが、幕府側・老中は「皇位につかない私親への尊号宣下は名分を乱すもの」として拒絶した。
「光格天皇」も尊号を諦め断念した、その二年後に「典仁親王」が薨去する。だが時代が変わり、一八八四年(明治七年)、「典仁親王」の九十年忌に「二三代・明治天皇」の高祖父であることを理

陽光院(ようこういん) 太上天皇陵 御名 誠仁親王 さねひとしんのう
生没年 西暦一五五二年(天文二年)〜一五八六年(天正一四年)
時代 安土桃山時代 続柄 正親町天皇(父) 後陽成天皇(子) 陵形 九重塔

慶光(きょうこう) 天皇陵 御名 閑院宮典仁親王 かへんのみやすけひとしんのう
生没年 西暦一七三三年(享保一八年)〜一七九四年(寛政六年)
時代 江戸時代 続柄 光格天皇(子) 陵形 多宝塔



「ボクシングが人生に似ているのではない。」

人生がボクシングに似ているのだ！

いざ行かん、拳闘世界一周の旅へ…

世界拳闘紀

WORLD BOXING JOURNEY

第15回 南アフリカ共和国

現代の暗黒史、悪名高いあの政策

第15回は南アフリカ共和国。スポーツで言えばボクシングよりラグビーってイメージが強い国かと思うんです。屈指の強豪国。ワールドカップでも3回優勝。映画「インビクタス/負けざる者たち」も感動的でした。サッカーもW杯開催したり盛んです。あとダイヤモンドの産地としても有名。

しかし、スポーツ以外でこの国を語るべきとまで最初に浮かぶのは人種隔離政策アパルトヘイト。今でも世界中で差別は残っているけど、1911年の鉱山労働法をその始まりとする。と1991年まで80年に渡って国の政策として黒人差別してた。勿論これがこの国の経済だけでなくスポーツにも暗い影を落としかけていた。

世界で一番有名な南アフリカのボクサーは？

この国出身で一番有名な元ボクサーは？それはネルソン・マンデラ。

そう、「元」ボクサーで括れば。彼は投獄されたキャリア断絶しなければ世界的な活躍も期待できた選手だったか？かどつかはともかく、後に「私には、人生において悔やまれることがひとつある。それは一度もヘビー級ボクシングの世界チャンピオンになれなかったことだ」と冗談混じりに話すほど。彼が弁護士として勤め、今や歴史の建造物であり観光名所のチャンセラーハウスの前にはボクサー時代のマンデラの像がある。また彼自身ボクサーでもあり、メイウエザー対パッキャオを自国で開催しようとした事も。考えようによっちゃボクサーとして大成しな

破ったのは、南アフリカの後輩黒人ボクサーである。ブヤニ・ブング。13度の防衛を果たす名王者になる。世界的には彼の方が評価高いですね。

「ミニムからヘ」まで

偏りなく良い選手を生み出している国

この国は、ミニム級の王者もいればヘビー級王者も輩出。これは近代ボクシング発祥の国イギリスにも言える。だが、競技人口が多く、アマボクシングの土台の基本的技術がしっかりしたボクサーが多いことも役買しているような気がする。H級ではケリー・コッツイ、フランソワ・ボタ後、K1にも出てた。あ、K1と言えはマイク・ベルナルドも一応WBF獲ってる王者、コリー・サンダースと、結構王者を輩出している。その一方、軽量級でも選手は豊富で逆にM級でもゾラニ・ベテロ、ヌコシナチジョイ、ヘッキ！ブドラーと枚挙にいとまがない。

その上の軽量級だと、近年日本人と対戦した選手だけ思いつくままピックアップしても、LF級王者シベナティン・ンティンガ、F級王者モルテム・ムザラネ、昨年我らが田中恒成からベルト持ったS級王者フメレレ・カフ、ゾノニテテ、長谷川穂積に破れた後F級王者になったシンビウイ・ベチエカ・e・t・c。いくらでも出てくる。男子の平均体格ってこんななんやろ。

ブドラー、小さな死刑執行人

個人的にはブドラーが印象深い選手なんです。何気に髪の毛がピンクだったり青かったり金髪だったり…でも記憶に残っている選手。それに息が長くない？ずっといてるイメージ。IBOも含

つたからこそ、リング上の相手どころじゃない巨大な敵を戦い、勝ち、偉人として歴史に名を残したのかも。

国内に二人の王者。

20世紀初頭みたいな酷い制度つすね

70年代まで国内王者も「黒人王者」「白人王者」に分けられていた。当然アパルトヘイト廃止前の90年代頭までは国際的な選手は白人が多い。実は制度廃止前から南アフリカ国内ボクサーの9割は黒人。とも言われているので廃止後のこの30年は黒人選手の台頭が目立つ。逆にいうと90年代までは世界的に活躍する黒人選手はほとんどいなかったという事ですよ。

白井義男と同期

そんな南アフリカ初の世界王者は、アパルトヘイト真只中1950年にバンナム級で世界を獲得したビッグタウ・イル。白いヘンリー・アームストロングというニックネームの通り、やはり白人です。アマ190戦188勝(180KO)2敗。

その後、名王者マヌエル・オルチス相手に14戦目(当時としては少ないキャリア)で戴冠！英雄だったんでしょねえ。4度目の防衛戦では28,000人の観客を集めたそう。その防衛戦でオーストラリアのジミー・カラザースに初回KO負けで陥落。場内騒然、あわや暴動？という状況だったそう。ちなみに当時の一階級下のフライ級王者は我らが白井義男。

めると最初にLF級で王座獲得したのが2010年。翌年M級に下げIBO二回級制覇。2013年にWBA王者奪取。その王座を維持したまま、2017年にまたIBOのLF級王座も獲得。IBO好きねえ。

その後、2018年に東京でWBA・IBF世界ライトフライ級統一王者田口良二に挑戦。田口有利？くらいに思っていたが、田口を空転させて一気に2つの王座奪取！その後、田口のジム後輩の京口にKO負けで陥落。

その後暫く名前聞かないな…って思ってた。2年半後に復帰、3連勝で当時絶対王者の寺地拳四朗に挑戦すべくまた来日！以前はまずテクニシャンという印象だったが、この試合ではテクニックより精神力の強さを全面に押し出したファイトを展開。拳四朗の前にテクニックを無効化されたという側面もあるが、その勇猛果敢なファイトっぷりに我々日本人も熱く感動しました。

テテテテテテ

もう一人、個人的に印象深いゾラニテテについて語らせてください。すぐ終わるから！
そもそも南アフリカのKOセッションみないな触れ込みでちょこちょこ日本のボクサー間でも話題になり始めたのは2010年。が、初王座挑戦は同国人のムザラネに5回KO負け。その後も挑戦者決定戦で負け、また挑戦者決定戦で負け、もう消えそう。から見事復活し、ここ日本の神戸で帝里木下とIBFのSF級王座決定戦に完勝判定勝ちで王座獲得！

実はこの試合現地観戦しました。神戸ポートピアホテルの宴会場を試合会場に使い、観客もジャケット着用のドレスコードありという、ボク

今でも印象深い選手といえば

丁度、時代錯誤のアパルトヘイトが南アフリカ国内でも限界を迎えた頃に活躍した名選手。それがWBA世界ジュニアライト級王者ブライアン・ミッチェル。この王座は12度も防衛、実質王座統一(渡辺二郎的な)、王者のまま引退。すげーよ！

1986年9月に地元南アフリカでWBA王者アルフレッド・ライネを10ラウンドTKOで破り王座獲得！しかしこの後、WBAはアパルトヘイト政策を続ける南アフリカでの世界戦を禁止。よってこの後は延々、さすらいの流れ者王者といった感じで常にアウエーでの防衛戦を余儀なくされる。

当のミッチェル本人は堂々と反アパルトヘイト主義を表明していた。「黒人地区に住んでるし一緒に練習してるし。肌の色が違うだけで同じ人間やで」と言い続けたので、母国上層部との関係も微妙だったのかも知れないですね。

時の風化に耐え、

その評価は寧ろ現代で高く輝く

その後、防衛戦で訪れた国で反アパルトヘイトのデモが起きたり、散々な目に遭いまくりながら12度防衛。IBF王者トニー・ロバースとの統戦はドローも再戦ではきっちり勝利。

結局、キャリア初期に喫した一敗(それも後に世界戦でリベンジ成功)のみで王者のまま引退。45勝21KO1敗3分と言うレコード。それも常にアウエーで勝ち続けたと言っ名王者。なのになにか評価低いなあ…影も薄いなあ。とここ日本で思ってたんですが、そもそも反アパルトヘイト主義者であった事もあり、時を経て彼の

ングで余り見えない雰囲気での試合ちなみに観客の4割くらいしかジャケット着てなかった。帝里の応援の朝鮮高校生徒たちが、試合後リングを降りたテテに群がりキラキラした目で撮影と握手攻めしたのは「勝者が全てをいだけ」というボクシングの真理を目の当たりにし、これ正しいよな。と思ひながら筆者もバッチリ2ショットを撮影。初王座獲得で気分よかつたのか、最後の1人になるまでずっとニコニコでファンサしてました。んで筆者もファンになったよ。

その後のテテテテテ

それからテテテは順調に2階級制覇し、WBSで準決勝まで進みモンスター井上の対抗馬ボジョシヨに！だったものの、肩の故障で欠場(結果、対戦予定だったドネアが再ブレイク)。その後あのカシメロにKO負けで陥落、23年にドーピング検査で陽性。4年間の出場停止中。どう思います？格闘技のドーピングだもん、残念だけど妥当と思う(永久追放も有りかと)。一方ドーピングで1年足らずで戻ってくる選手には、ただのちょこちょこ長めの試合感覚やん！と思う。

そんな南アフリカの今後

なんかねえ、治安の悪さと貧富の差が解消されず、まだまだ国力が良くなる見通しが立たないとか聞きます。でもしんどい現状だろうが「攫千金を狙ってまだまだ強い選手を輩出してくれる国」と思っので、そこは今後も期待しているんです。この国の選手はよく日本まで来てくれるけど、何時間の旅なんじゃろね。とか思っ。ありがとうね。という訳で、それではまた！

主義や言動も当時より浸透したような気がしますが、今やボクシングでは反差別の国際的ヒーローとして名声上がった？2009年に南アフリカボクサーとして初めて名譽の殿堂入りましたしね。

西田じゃねえ、ニシター！

その後、アパルトヘイト撤廃に伴い続々と黒人王者も誕生していく。その中でも筆者の記憶に残るのは、アパルトヘイト末期に王座を獲得した黒人選手、IBFジュニアフェザー級王者ウエルカムニシター。綴りも「Welcome」。リングネームなのか？訳すと、ようこそニシター！

「俺との戦いようこそ」みたいなポジティブな意味とも取れるぞ。そもそもジュニアバンタムが主戦場だったが、25連勝と爆進し続けるも中々チャンスに恵まれず。やはりそれは南アフリカの選手だったって事も関係してんのかな。ほな2階級アップしてジュニアフェザーで挑戦しませーと1990年3月スペインのファブリシユベニシユにイスラエルのテルアビブ(イスラエルで世界戦つてレア)で挑戦。完勝でタイトル奪取。

彼が残した遺産というが

切り開いた地平に続く黒人選手たち

その後7度目の防衛戦でゴールドメダリストのアメリカのケネディマッキニーに大逆転KO負けで陥落。再戦でも先にダウンを奪つも判定負け。歴史上ではそこまで名チャンプではなかったかも。でも彼こそは南アフリカの黒人ボクサーに次の時代の扉を開いた選手だと思うのよ。ちなみに彼からタイトルを奪ったマッキニーを



「伊勢神宮」の本殿と菊の御紋



アコヤ貝型に真珠を埋め込んでいる



「修学旅行記念」と刻まれている



愛知県「伊良湖」

三重・愛知編

修学旅行のお土産！？

3つもある三重県伊勢のキーホルダー……

「お伊勢さん」といえば、関西地方では小学校修学旅行の定番の地。そのキーホルダーが3つも出てきた……、親戚の兄ちゃん、姉ちゃんのお土産だと思う。「なぜ」キーホルダーなんだ～、私自身も数年後に伊勢へ修学旅行に行くのに、もう少し気の利いた物をくれないのかな、と当時思っていた。できれば甘い食べ物、「名物・赤福餅」でいいんだよな。あの頃は甘いものに飢えていたから（笑）。



雷鳥と立山



ベナント形の「熱海の寛一お宮」



富山県形「富山の旅」



静岡県「箱根・十国峠」

富山・静岡編

立山登山記念に買ったキーホルダー、自分でも買っていたとは……トホホ……

自分でも買ってしまっていた富山県・北アルプス立山登山記念のキーホルダーと、誰がくれたか分からない静岡土産のキーホルダーです。

立山登山記念のキーホルダーは「なぜ」買ったのか？ 全く覚えていない、それも2つも買っている。その時の状況を考察したならば、誰かが旅行に行く度に増えていくキーホルダーを見て「なんとなく旅行に行けばキーホルダーを買う」と刷り込まれていたのだろう。しかし、自分に「いやげ物」を買っていたとはつゆ知らず、よくこんなコラムを書いているなあ……。これぞ、天に唾する者です。



高松塚古墳の壁画「女子群像」



案山子型キーホルダー「意匠登録出願中」



東大寺型のキーホルダー

奈良編

世界遺産に認定される前の奈良県キーホルダーが3つもあった……

奈良県も3つもありました……。飛鳥が2つと東大寺が1つ。勿論、このキーホルダーも誰から買ったのか覚えていない。きっと親戚が田舎から出てきて、我が家に泊まり関西地方を観光したお土産だと思う。私たち自身が関西で住んでいるのに、関西旅行記念のお土産っていないんだけどなあ（苦笑）。子供の時、どんな顔で買ったんだろうか。

追記 この連載を始め「X」などにも投稿していたら「お土産キーホルダー友の会」さんにフォローして頂きました。「お土産キーホルダー友の会」があるんだとびっくりしたのと、キーホルダーを「いやげ物」などと言ってすみません！ この場を借りて謝罪と感謝をお伝えいたします！！



山口県萩の観光名所キーホルダー



山口県「国の天然記念物指定・青海島」



岡山県「岡山城・後樂園」

昭和ガラクタノスタイル

家のじゃまけモノ

天袋、家の掃除をしてみれば 出るは出るは、あの日のお宝？

誰が行ったか知らないが 旅の土産のキーホルダー

叱られて、取り上げられたプラモデル

勉強用、買って使わずヒーローノート

誰が聴いたかビックスター昭和歌謡のSP盤

娯楽といえばプロ野球 知らぬ球団、バッヂをつけて草野球

あの頃、捨てずに残したお宝も 今じゃ「家のじゃまけモノ」

旅の土産のキーホルダー

中国地方編

子供たちは「ズッシリ重い」を有り難がる……。？ いらないよキーホルダー。

なぜ、子供たちの「お土産」には「キーホルダー」が多かったのか？ 今でも謎だ、少し考察してみた（笑）。この「いやげ物」をもらい出したのが、昭和高度成長期だ。1964年・東京オリンピック、1970年に大阪国際万博とビックイベントが続いた、経済大国へと走り出した背景があった。家族は大家族から核家族へ、僕たちは「木の机」から「スチール机」、小さな物では「鉛筆」から「シャープペンシル」に移り変わっていった。この頃から、おもちゃも（特に男子の）セルロイド、ソフトビニール製から鉄製のズッシリ重い「超合金」と言われる「亜鉛ダイキャストパーツ」が使用されているおもちゃ（アニメロボット）が発売された。そんな「超合金」は子供たちの憧れの的だった。もちろん我が家では、そんな高価なおもちゃなど存在しない（涙）、極一部の富裕層のおぼっちゃまが持っていたくらいだ。その「ズッシリ重い」に目を付けたのが、ずい大人たちだ！！ 子供は「ズッシリ重い」物を有り難がる勝手に思い込み、土産には「かさばらず、手頃な値段」のキーホルダーが選ばれたのだろう……。 （と、勝手に思っている・笑）



広島県宮島のプラスチック製のコインホルダー



アオシマ・ミニモデル 「ロボット島 ビッグX」

スラモデル編

軍艦なんかふんづける」戦車だって手づかみだ」手塚治虫の名作「ビッグX」
また、懐かしいモノが見つかった、ヒーローもののプラモデルだ。それも珍しい「手塚治虫」先生のキャラのプラモデルが、手塚キャラのプラモってあまり記憶にないですよ。
この「ビッグX」は1963年から1966年まで集英社『少年ブック』で連載され、1964年8月から1965年9月まで「テレビまんが（アニメ）」としてTBS系列局で放送されたんです。どんな話かと言えば、第二次世界大戦末期、ナチス・ドイツが開発を進めていた「人間兵器」！？「ビッグX」と名付けられた薬を注射すると、鋼鉄のような体になり巨大化する。ナチス・ドイツが滅び終戦から20年、再び「ネオナチ」が現れる。そこに「ビッグX」の開発者の孫「昭少年」が「ビッグX」と変身（注射を射つんですけど・笑）して勇敢に戦うのです。その放送より約10年後、1976年に「アオシマ」より「ロボット島ビッグX」が販売されたのです。時代はオイルショック、原材料が高騰していて「接着剤」を使わないプラモデルが各メーカーから販売された、この「ビッグX」もそうなんです。でも、よく残っていたなあ・・・、間違いなく母に叱られて取り上げられたモノだろう（苦笑）。ちなみに、「テレビまんが」の主題歌・作詞は、去年お亡くなりになられた「谷川俊太郎」さんですよ・合掌。

トッポ・ジージョの アルマイトお弁当箱 キャラクター編

幼少時代の遠足は、お下がりのお弁当箱だった。「トッポ・ジージョ」！懐かしい！イタリア・ミラノ生まれのネズミの男子「トッポ・ジージョ」が主人公、テレビでは1966～68年、1978年からは『ママとあそぼう！ピンポンパン』の1コーナーとして「人形劇」で放映していた。覚えてますか（笑）？このお弁当箱を見つけたのが、なんと正月用の重箱の中からのんです。嵩張る箱物は、やはり嵩張る箱物の中に仕舞う、昭和世代・生活の知恵というのでしょうか。そして、このキャラ、男子が好むとは考え難い・・・。私は男子だったので（今も男ですが）。記憶を辿ってみれば、この「お弁当箱」は親戚のお姉ちゃんが使っていたモノ、そのお下がりが私に巡ってきたのです。ここにも昭和的な匂いがします、今考えれば昭和のSDGsですよ。



ウルトラQノート 七大怪獣編

七大怪獣が表紙になっている「ウルトラQノート」。放送終了後に販売されたノートだから、こんなにも怪獣が描かれているんだろうな。当時は白黒（テレビ、写真も）だから、モノクロプリントの上に色付けをしてるんですね、手塗りで。でも、出てくる怪獣は現存する生物そのまま、今では考えられないです。カタツムリの「ゴーガ」、ナメクジの「ナメゴン」！名前もそのままほい、駄目押しにトドの「トドラ」だ〜（笑）。そんな怪獣たちでも、あの時代は胸をときめかせ毎週放映を楽しみに待っていた。今でも「ナメゴン」は気持ち悪い〜〜。



ベギラ、ケムール人、モングラー編

ブルーバックの爽やかな「ウルトラQノート」この「ウルトラQノート」は、怪獣ノートらしくない爽やかなブルーバックのノートです。冷凍怪獣ベギラをメインに、気持ち悪い走り方のケムール人！！その手には放映内容通りの観覧車。そして、ただの巨大化したモグラのモングラー、本当に名前も安易なんだよね、この昭和期は（笑）。このモングラーは、ロイヤルゼリーの数百倍の効力を持つ特殊栄養剤ハニーゼリオンで大きくなった蜂を食べた巨大化したモグラ。その必殺技は！なんと鼻息〜、その鼻息は風速50mで戦車も吹き飛ばすんですよ。当時の栄養剤と言えばロイヤルゼリー（高級だったんですよ）、現在の栄養剤（ドリンク）なら「ユ○ケル」や「レ○ブル」なんだろうな。あまり飲み過ぎて巨大化しないように気をつけましょう（笑）。



昭和がラクタノスタビジー
家のじゃまけモノ

ソノひヨリ

A shrine in the sky that brought about miracles

2024
Dec. 21-22 day

第三話 香川県 観音寺市

「奇跡を呼び寄せた、天空の鳥居・高屋神社に登山？」

「思い立ったが吉日」と香川県観音寺市へ向かうのだ

二〇二四年の暮れも押し迫った一九日、まだ二〇二五年の年賀状用の写真が決まっていなかった。「どうしたものか・・・」と、悩みつつも何気なくYouTubeを閲覧していた。その時、偶然見つけたのが香川県観音寺市に鎮座する「天空の鳥居」こと「高屋神社」だった。いくつかのYouTube動画を確認して、二〇二五年の年賀状の写真はここすることに決めた。すぐさまGoogleマップで位置関係と交通手段を調べ、日向き、日の出・日の入りを確認する。「思い立ったが吉日」二日後の二〇二二年二日土曜日に出発することに決めた。あいにくその日の現地天気予報は雨だが・・・。

二〇二二年、出発地・大阪は曇り、現地もやはり「曇り一時雨」の予報だ。まあ、一か八かで移動を開始し始める。交通手段は南海電鉄の「徳島すきっぷ」を利用して徳島港へ向かう。このキップは前にも紹介したが、なかなかお得なキップ。南海沿線の各駅から「和歌山港」までの鉄道乗車賃と、そこからの「徳島港」までの「南海フェリー」の料金がセットになっていて二五〇〇円なのだ。八時二十五分の徳島港行きに乗船、約二時間の船旅にて徳島に上陸。

「徳島港」からレンタカーでビックアップのため市街地に向かう、時間が欲しいので港に一台だけの客待ちタクシー



南海フェリー「かつらぎ」に乗船。紀伊水道の真ん中辺りでは靑空が見えた。

が建つ「本宮」が鎮座する、三宮構成の神社です。

駐車場より三〇〇mほど進めば参道入口、そこには杖と物々しい看板が立っている(笑)。そこには「軽装厳禁です！登山はすべて自己責任です！」と、これを読めば相当キツイ登山道だと理解できる。だから「杖」は、ありがたく使わせていただくことにした。

参道スタート時間は一五時、登山所用時間が一時間、本宮には一六時に到着予定だ。初めてのトレイルなので「ゆっくりマイペース」で登ることにする、安全第一が大切。

参道の三分の二ほど(五丁目付近)で、雨と雹にやられた！防水パーカーを着込んで木陰でしばらく休息をとる。カメラも濡れるのが嫌なのでリュックにしまうことにした、トレイルの模様は後編に詳しく写真と説明するので「安心を(笑)」。少し雨脚が弱くなった隙を突き、二丁目まで進む、ここで最後の難関がある。約二七〇段もの石階段だ、雨後の石段はとにかく滑りやすい、時間をかけてゆっくり登り山頂に到着。そしてようやく振り返り、その風景を確認すると！確かに「天空の鳥居」だ！到着時間が一五時四三分、歩行時間・約四〇分

まずまずのペースで登れた(かなりしんどいです・笑)。登頂の喜びはさておき、空模様は相変わらずの曇天で小雨がパラつく、「四時のバカッパレ」にはほど遠いありさまだ・・・まず本殿に挨拶をする、お賽銭は奮発して五〇〇円で「日」のお出ましを祈った。絶望的な空模様だが仕方がない。日の入り前までは待つことにしよう。

奇跡は起こる、いや、五〇〇円のお賽銭が願いを叶えてくれた

誰もいない吾妻屋で寒さの中、待つこと約三〇分、対岸の中国地方で沸いた雲が西から東へと流れていく。先ほどよりも風が強くなったことに気づいた、雲の脚が早まっている。「おおう！」これはチャンスかもしれない。先に確認しておいたポイントに三脚を立てカメラをセット、あとは祈るしかない。

待つこと五分、すると雲の一部が薄くなっている、白く輝き出した！！雲が割れている！そこから一筋の光線が海面に届き、光の華が咲き出した。奇跡が起きた、いや違う、神様が叶えてくれたのだ！先ほどの五〇〇円が功を奏したのだ。

シーに飛び乗った。ここから市街地(徳島駅周辺)に向かうには本数の少ない路線バスしかない、時間が無い方は乗降客より逸早く下船してタクシーに乗り込むことだ(笑)。

ガッツなレンタカーで快適ドライブで香川を目指す

「ガッツレンタカー」で車をビックアップ、二時過ぎに香川へスタート！フェリーより下船、約三〇分の速さで移動と事務手続きを終えた、上出来だ。少し渋滞気味の市街地を抜け、吉野川を渡れば「徳島自動車道」徳島インターチェンジ入口だ、ここから約一時間四十五分・約一二五kmのドライブを楽しむ。「徳島自動車道」は片側一車線の道だが渋滞もなくスムーズに進んでくれた。徳島県を抜け「四国横断自動車道・高知自動車道」に経由、愛媛県「川之江ジャンクション」にて「高松・瀬戸中央自動車道」、「高松自動車道」に乗れば目的地の香川県観音寺市もすぐ。

途中の「徳島自動車道」山間部走行中は気持ちいい靑空を見せていた空が、観音寺市「大野原インター」を出るときには鉛色の曇天に変わっていた。二時半に観光スポットの琴弾公園内・琴弾山山頂の「銭形展望台」駐車場へ到着。

本日の現地行動予定は、日の入り一七時一分の二時間前「天空の鳥居・高屋神社」に到着してのロケハンが目的。駐車場の鳥居・高屋神社「高屋神社・下宮(里宮)」より山上の「本宮」まで、約一時間(距離一・五km)の登山道。一五時までは、あまり興味のない(失礼！)観光スポットを見て時間を潰すことにした。空模様は相変わらず一面に雲が覆い、今にも雨が降り出しそうだ・・・。

展望台で「銭形砂絵」

を鑑賞後、まだ時間が余っているので展望台下の「日本の夕陽百選、日本の渚百選」に選ばれている「有明浜」を散策。その途中ついに小雨がパラつきだした・・・浜風も強く、体が冷えてきたので逆めの昼食を食べに車へと戻った。昼食は「名物」讃岐うどんにする。



香川県 琴弾公園内・琴弾山山頂より「銭形砂絵」を眺望。

くる。だが、日の力の方が優っている、日の力で雲を飛ばし、また一筋の光線が斜めに走り出した！

クライマックスが訪れた、天から海に降り立つ神の道のような光の筋が。時間にして数秒、瞬く間の光のショーだった。光の筋が薄く消えていくと、本殿にとぼりが落ちてきた。「四時のバカッパレ」ほどではないが、十分満足できるロケハンだった。時間を確認すると一六時三〇分、そろそろ下山するのが安全だ、再度、本殿に向かい御礼と「明日もよろしくお願いたします」と願い帰路に着く。



「天空の鳥居・高屋神社・本宮」、光が海面に差し出す瞬間。

気軽なロケハンが、悪天候の登山になった・・・。気軽な気持ちで出かけてはいけません。

「手打うどん・かじま」

さんを出て、五分も車で走れば「高屋神社・下宮(里宮)」駐車場に到着。ここで「なぜ、こんな天候の悪い中、ロケハンといえど山頂まで登るのか」を説明しておこう。

私の生業である広告

制作業という仕事柄、風景写真やムービー撮影の現場責任者(現場監督)をやることが多い。まだ、駆け出しの頃、今日の天候に似たロケがあった。今にも降り出しそうな厚い雲、本日のロケ撮影は中止かなと思いき、監督の指示を待っていた。思った通り監督から、一度ロケ車に戻る指示を受けたのだが、一向に撤回する気配がない？疑問に思い熟練のカメラマンさんに尋ねてみた、その答えは「四時のバカッパレ」と答えが返ってきた。「？」が頭を駆け巡っていると、横にいたアシスタントの方が「こんな天気の日でも、四時あたり(西日)に雲を掻い潜り、お日さまが顔を出ることが多いんだよ」と教えてくれた。それ以来、天候の悪いロケでもこの教えを必ず守っているのです。



「高屋神社・下宮(里宮)」の本堂にて参拝、安全祈願をする。

その教え「四時のバカッパレ」を胸に「高屋神社・下宮(里宮)」駐車場より登山道入口を目指した。ここ「高屋神社」は千年以上の信仰の場であり、平安時代の「延喜式・神名帳」に「讃岐国刈田郡高屋神社」とあり「延喜式内社・讃岐二四社」の一社。即ち、由緒正しい神社なのです。御祭神は「天照大神」の孫で皇祖神の二柱「邇邇杵命(ニニギノミコト)」、食物の女神「保食命(ウケモチノミコト)」の三神。お宮の構成は、登山スタート地点に「下宮」または「里宮」、本宮までの一・五kmの途中(下宮より五〇〇m位に)「中宮」があり、「稲積山」山頂に天空の鳥居

「二日目」本日の天気は曇り。予報も一日中「曇り」・・・。

朝、七時前に起床。ホテルの窓から空を伺うと、予報通りの「曇り」だ。想定内の結果だが、少し期待をしていた。もう一度、ベットに転がり、リアルタイム(詳細な)の天気予報をチェックする。昨日の予報では、午前九時から一三時に唯一の「晴れ」マークが付いていた。今、チェックした天気予報では「晴れ」は一〇時から一一時までの二時間に減っていた・・・。

ホテルから「高屋神社・下宮」まで車で一〇分、山頂まで徒歩・約三〇分(本番は本気で歩くので昨日より時間短縮)。この空模様、急いでも如何にもならない、ホテルを八時半前にチェックアウトすることにした。

八時半出発には、もう一つの訳がある(笑)。それはホテルの並びに「和菓子・洋菓子 美栄堂」というお店がある。ここは、創業八〇年の和洋菓子屋さんで、観音寺市民が愛するソウルフード「くるりんパイ」を販売しているのです。その情報を知った限り、甘党の私は、どうしても食べたくなった。

開店時間を調べれば、なんと朝八時三〇分開店！これは神の思し召しと思いき、時間どおり開店した「美栄堂」さんに飛び込み、「くるりんパイ」二〇〇円を購入。これで、朝食ゲット！お宮で食べることにして車を走らせた。渋滞もなく「高屋神社・下宮」駐車場に八時四〇過ぎに到着した。



観音寺市民が愛するソウルフード 美栄堂さん「くるりんパイ」200円

落ち葉道、ガレ道、滑る道、一足間違えれば、あの世へ道行

ここで、もう一度「天空の鳥居・高屋神社」のおさらいを致しましょう。標高四〇四mの「稲積山」の頂上(付近)に鎮座する「高屋神社・本宮」、登山口(参道口)から本宮まで約一四〇〇m。登山口の標高が七四m、頂上との標高差が三三〇m。すなわち、この登山道は一〇mで「二・三m」標高が上がる「二・三%」、一〇〇m進めば「二・三%」、マンションで言うなら「七・八階」の高さに当たる。一般的には「一〇%」以上が急勾配と言われているので、まあまあ急勾配なのだ(笑)。

さて、登ることにしましょう。スタート時間・八時五五分。駐車場から約三〇〇mほど進むと「注連石」がある、ここを潜れば聖域となる参道の始まりだ。スタートは、真っ直ぐ



「手打うどん・かじま」さん。キツネうどん (小) 500円、おでん (厚揚げ・じゃがいも・こぼろ天) 1本・100円と安い。

な舗装道を登る、この坂の途中に「一二丁」の石標が立っている。斜度がキツイが道幅があるので歩きやすく、歩き始めには有難い。

だが、「十一丁」あたりで道幅が減少、落ち葉が積もった道になる。ここは注意、舗装道の上に積もった落ち葉で足が取られやすい。晩秋から冬にかけての登山は足元がしっかりと靴が必要だ。

「十一丁」で左手に折れ急勾配をまた登る、この途中に「一二丁」を発見。勾配を登り切れば、踊り場のような空間に「高屋神社・中宮」が鎮座されている。「十一丁」からここまでが約六五m、ただひたすら登りだ。



スタート地点の上り坂、この途中に「一二丁」の石標あり



現在は鳥居とお賽銭箱のみの「高屋神社・中宮」
標高182m/登頂距離400m



登山口前より、標高404mの「稲積山」を眺める。標高74m/登頂距離0m

「高屋神社・中宮」を過ぎた辺りから角度が一段とキツくなり、つづら折りのトレイルが始まった。・・・頂上まで「一〇〇〇m」の表示に励まされているのか？ガツクリするかは、本人次第の表示だ（笑）、このあたりが「九丁」あたり。つづら折りの道を左、右、左、右、と登り、真つ直ぐ伸びる長めの道（当然、登りだが）を進めば「八丁」に到着。この「八丁」辺りから道の表情が一転する、道幅は狭く山側から岩盤が迫り出していて、足元がより不安定になってくる。「八丁」から「七丁」は同じ様な道が続く、急勾配の坂の途中で休憩をとっていると登山者が登ってきた。歩き方を見ていると、すでに足を痛めている様子だ。声をかけ「大丈夫ですか」と聞けば、落ち葉で足を滑らせたみたいだ。服装・

の上空を見上げれば、徐々に青空が広がり出している！何はともあれ、本殿で感謝の気持ちを含め、昨日と同じ五〇〇円のお賽銭を入れた。



270段もある石段モンスター、振り返ると足がすくむ！



無事、登頂！ 本殿に感謝を伝える。

二度の参道登山、クライマックスは？

到着時間九時二八分、三分の登山時間。昨日より若干速く登頂することができた。息つく暇もなく、上空に晴れホールの音が広がってきた。きつと、その時間は一時間もないはず、昨日確認済みのポイントに慌ただしく三脚を立てシャッターを切った。

撮影中にふつと昔のことを思い出した、仕事で幾つかのトレイルを登り撮影したことを。有名どころでは、「カナディアンロッキー」の「リトルビーハイブ・トレイル（高低差三五八m）」、「ニュージブラント・マウントクック村」の「レッドリタインズ・トラック（高低差三〇〇m）」などをよく似た高低差の山を、海外の山や風景はどこも素敵で、何よりそのスケールに度肝を抜かれるのだが、なにやらいつも足りない（笑）。

大自然の風景は素晴らしいのだけれど、それだけなのだ。そこに根付いた人間臭が感じない、無味無臭の風景に見える。だが、多くの日本の風景は人と共に育つことで人間臭を感じさせてくれる。即ち、風景にエッセンスが加わり深さを感じる。幾百年の間、人々に崇められて鎮座する「神」がおられるのだから。ユーチューバーが多く集まるのもよく分かった気がする。何より、悪天候予報のため一か八かの撮影だったが、二日間とも奇跡が起きた。いや、奇跡ではなく「神」がお与えになった吉祥だと感じたい。オカルトめいた話に聞こえるかもしれないが（笑）、そんな風に感じられる、日本の風土・風習がこよなく愛おしく感じる旅になった。

装備を見れば登山経験者だと分かる、

一安心、自己管理ができているので無理せず歩くはず（この方、登頂できました）。「ペリス」を落として歩けば、大丈夫です」と返事を聞き、安心して先を目指した。

そんな遭遇から少し前に進ば、木立の間から標高一五三mの「有明富士」とも呼ばれている「江草山（つくもやま）」が見えてきた。この後「七丁」の石標を発見、道の表情は「岩盤」から「ガレ」のつづら折りに変わってきた。

「ガレ」のつづら折りが続く道、少し悪戦苦闘したがようやく「六丁」に到着。「江草山」が先ほどより下に見えてきた、着実に標高が上がっている。「六丁」の石標から水平な道が伸びている、進んでいくと「鉄の橋」が掛かっている。まだ新しい橋だ、きつと、土砂崩れがあつて道が寸断されたのを補修したのだろう。心細い手すりだなどと思いつつ、慎重に橋を渡る。

この辺りは、本当に歩きづらい！「ガレの道」と言うより、「ガレの階段」・・・、一歩一歩と着実に慎重に歩くが蹴躓く始末だ。この道中に「五丁」の石標があったはずだが、見逃してしまつた。それくらい、このポイントは難所だつた（笑）。



「六丁」から「五丁」間の「ガレ」の自然階段・・・
標高260m/登頂距離600m



「ガレ」が終わり、見晴らしの良い展望スポットに出る。

そんな道に悩ませられたが、ようやく「ガレ」が終わり、その褒美に見晴らしの良い展望スポットに出た。風景も美しいのだが、何より空が明るくなりつつあるのが嬉しい！！しばらく歩くと「残り五〇〇m」表示が出てきた、三分の二を登ってきた。



「八丁」から「七丁」付近、足を痛めた登山者がゆっくり登ってきた。

「天空の鳥居」前

「ラスボス」が現れる！ピンチ、ピンチだ。

「五丁」を過ぎたところから、道幅が広い土の道に変わった。歩きやすくなると思つたが、道の真ん中に轍ができていた。道が急なため大雨が降れば、川のように流れ水が下る、その時に出来た轍だ。こも足を捻らないように気を付け進む、なんとも歩きづらい道が次々と続くものだ。ブツブツ言いながらも「四丁」「三丁」と通過していく。

ここからは、屋根伝いの様な感じの道になり、斜度も緩やかな心優しい登りになってくる。大きな岩が登山道に現れ出すと「二丁」辺りだ。この辺りからも美しい瀬戸内の風景が眺望できる。美しい風景を見れば、最後のひと頑張りができるはず！

瀬戸内の美景を眺め、足取りも軽くなる。緩やかなカーブが現れる。曲がり終えると、絶望的な長い自然石の階段が途か上まで続いている！！ゲムで言う「ラスボス」どころだろうか。クライマックスを迎えるには、この階段を登り切ればならない！この先には「天空の鳥居・高屋神社」が待っている、二七〇段もある石段モンスターを最後の力を振り絞ってつづけるしかないのだ。聖者の杖を片手に持ち気合一番、一段を踏み出すのです！



「四丁」「三丁」、緩やかな登りなのだが岩があり、やはり足元に注意を払おう。

石段の中腹（踊り場）まで登ると「ゆるぎの岩」と呼ばれている岩がある、ここから先が石段モンスターの本性が表れる。真つ直ぐ鳥居まで伸びた石段は、先ほどと比べれば斜度がキツく（一段の高さが高くなっている）なっている。万が一にも蹴躓いたら、真つ逆さまに転がり落ちてしまう。最後の最後、慎重に慎重を重ね登る。息を切らし、途中途中、休憩を入れてなんとか鳥居前まで到着した。ここで漸く後を振り返ってみると鳥居が立つ勾配、本当にここから落ちれば怪我では済まないのがよくわかる。冬だと言うのに、たつぷりかいた汗が一旦に冷や汗に変わる。ただ、そこからの眺望は、苦痛と恐怖を乗り越えた者だけに与えられた風景。昨日訪れた「銭形砂絵」や「明石浜」などが一望できる素晴らしい！

最後の一段を踏み越え「天空の鳥居」を潜って、神社本殿



「天空の鳥居」献上に青空が！！「銭形砂絵」や「明石浜」などが一望できる素晴らしい。

一献一肴

ITIGOU HITONAMA

酒は日本酒、四季など関係なく爛酒一筋。
真夏に汗かき呑むる爛、真冬に心を解かず熱燗を。
一献一肴、酒場の隅で旅路を思う、一合一肴の旅に出る。
暖簾をくぐり席に着く、今日の品書き何だろう、
それが本日の目的地。



あわす肴 特製・生ハムのピザ

本日は、先ほども言ったけど・・・「なぜ」かイタリアンパ
ルでの一献、お邪魔したお店は、京阪本線「守口市」駅と大阪メ
トロ谷町線「守口」の間、住吉街に店舗を構えるイタリアンパ
ルの「パールジェニオ (Parthenon)」さんです。
古民家をリノベーションした空間には、昭和レトロなインテリ
アと家具で演出されている、私に似合わない小洒落たお店です。
「私に似合わない」と思いきや、この店主も似合っていない
（笑）！ 前歴を聞けば元芸人で、漫才コンビ「ベジタブル」
と名乗っていた時に「ABC新人お笑いグランプリ新人賞」を受
賞したと言う！ だから、おしゃべりが達者（面白い）なんです
ね、もちろん料理の腕前もね！ その店主・小宅さんが作って
くれた肴は「特製・生ハムのピッツァ」！？ 日本酒に合うかと恐
る恐る口にしたら、意外や意外、合うんですね！ 生ハムのしよっぱ
さが、優しい旨味の「賀儀屋」と、お笑いと同じで、何でも一度
は試してみる事が大切だと教えられた気がした！ 今宵の一献だった



住宅街に突然現れる「パールジェニオ」。ジェニオでイタリア語で「天才」、自分で言うか！



この人が店主で元芸人の小宅雅司さん、よく言えば「深夜食堂」の小林薫似だ〜。「メニューはこれだけ。あとは勝手に注文してくれりゃ、できるもんなら作るよって。」

本日はなぜか（笑）？ イタリアンパルで一献。頂いたお酒は、愛媛県西条市に蔵を構える「成龍酒造」さん、それも情熱の看板酒「賀儀屋 無濾過 純米吟醸 黒ラベル」！

なぜ？「情熱」なのか、なぜ？「賀儀屋（かぎや）」なのか！ それは、「成龍酒造」さんの前身「鍵屋本家」にある。この「鍵屋本家」とは江戸時代に何代も続いた「庄屋の米蔵の鍵」を管理していた（当時は米イコールお金ですものね）、明治に入り「庄屋制度」の廃止に伴い酒造業を始めたのです。そして、看板酒の銘柄を屋号だった「賀儀屋（鍵屋）」としたのでしよう。そして、酒造りの理念に「情熱」の籠ったイキな言葉を掲げている、「酒は夢と心で造るもの」と！ カッコいい！ そんな情熱が籠ったお酒の味は、全ての面でバランスが取れ、どんな肴にも合う食中酒。原料米の愛媛産・松山三井を半分まで磨き上げ、全量手洗いと手間隙をかけた造りだすお酒。隠し味の如く、熟成感が仄かに感じるところが面白い（笑）！ 呑み疲れせず、ひと口呑めば「ほっ」と息付ける、肩の力を抜いて楽しめるお酒です。

酒 / 賀儀屋（かぎや）無濾過 純米吟醸
黒ラベル（愛媛県）
肴 / 特製・生ハムのピザ

一七 献日

成龍酒造
賀儀屋（かぎや）無濾過
純米吟醸 黒ラベル
原料米 松山三井 精米歩合 五〇%
日本酒度 十四 酸度 不明 一、七
アルコール分 一五、五%
産地 愛媛県西条市周布

愛媛県
西条市



酒 / 九州菊特選純米酒（福岡県）
肴 / イカ一夜下し

一八 献日

林龍平酒造場
九州菊特選純米酒
原料米 夢つくし
精米歩合 六〇%
日本酒度 不明
酸度 一、六
アルコール分 一六%
産地 福岡県京都府みやこ町

福岡県
京都府



本日、一献の酒場は酒のムラタ屋

本日は福岡県東部に位置する、京都府みやこ町（京都と書いて「みやこ」と読みます）の酒蔵「林龍平酒造場」さんから辛口の九州らしいお酒で一献です。この酒蔵の創業は二八三七年（天保八年）と「天保の大飢饉」の真っ最中に酒造りを始めたのです（すごい！）。福岡県で三番目に高い山「英彦山」の伏流水から作られた「九州菊特選純米酒」（あつ、これも「九州菊」と書いて「くすぎく」と読みます）の味は！ 一口呑めば「ああ九州酒だ」と思えるお酒で、硬水を仕込み水に使用しているの「ピリリ」と辛口、もちろんな米の旨味も凝縮されている、昔ながらの日本酒です！ 常温でもいけど、畑にすれば角が取れバランスの良い酒になる、食中酒にはもってこいですね。

あわす肴 イカ一夜下し 六〇〇円

そんな九州酒を味わえば、何となく玄界灘のイカが食べたくなった（贅沢な）。ひとりごつ、咳けば大将が「玄界灘産じゃないけど一夜下しならある」と冷蔵庫から出してくれた。もちろん、今夜の肴はそれに決まり！ 厨房から香ばしいイカを焼く香りがしてくる、その香りで「九州菊」を呑みしぼし待てば、小ぶりながらもゲソ付き一杯の一夜下しが登場。味は言うまでもなく安定の旨味、味変用のマヨネーズと七味唐辛子ならず山椒の実！ さすがはムラタ屋、こんなところからしきが出るね。山椒の身が「ピリリ」と口を刺激する、追うようにイカの甘みが広がる、そしてまた一献。今度は九州酒の「ピリリ」と旨さが鼻れ出す。

酒 / 道灌 鶴亀 氷冷貯蔵 山廃大吟醸生原酒（滋賀県）
肴 / 鳥の上肝のうま煮

一九 献日

太田酒造
道灌 鶴亀 氷冷貯蔵 山廃大吟醸生原酒
原料米 山田錦
精米歩合 五〇% 日本酒度 不明
酸度 不明 アルコール分 一七%
産地 滋賀県草津市

滋賀県
草津市



本日は滋賀県「太田酒造」さんの平成二三年酒造の「道灌 鶴亀 氷冷貯蔵 山廃大吟醸生原酒」で一献です。この酒蔵さんは、なんとお武家の家老の出なのです！ 幕命により越前福井藩から近江草津へ移住し、大名の動きを見極める「かくし目付」を勤めていました。明治維新後の明治七年に酒造りを始めたそうです。銘柄には太田家の遠祖の名に因んで「道灌（どうかん）」と名付けられた。約一三年寝かされた「道灌」の山廃大吟醸生原酒の味は！ 熟成による旨味と甘味がバランスよく引き出された、角のない仕上がりになっています。長い熟成を経ているのにお米のふくよかさ上品さを感じられるお酒ですね。熟成酒なのに不思議だ。

あわす肴 鳥の上肝のうま煮 三五〇円

そんな「道灌」をいただくお店は、大阪守口に長らく酒屋さんを営んで「立呑み俱樂部」もやっている「酒やのまたた」さん。一〇月にお店の目の前にできた「イオンタウン守口」に「酒やのまたた立呑み俱樂部」から「ひよし酒店立呑み俱樂部」として移転した新店舗が舞台です。海鮮とHACCPを中心にしたメニューから選んだ肴は「鳥の上肝のうま煮」。滋賀県・琵琶湖の酒蔵さんのお酒は、きつと「鮎すし」の様なクセのある肴が合うはず。ところがどっこい、この鳥肝は全くクセがなく上品な薄口の煮物だ。上品な熟成酒と上品な鳥肝が、今宵も杯を進ませる！ 外は小雨、もう一献おかわりを上品に伝えた。



カフェのような立呑み屋、厨房もオープンキッチンで美しい！



酒 / 香住鶴 山廃純米
天然乳酸菌発酵 (兵庫県)
肴 / 鳥ぶつとほうれん草の小鍋

二献目

香住鶴株式会社
香住鶴 山廃純米 天然乳酸菌発酵
原料米 兵庫北錦
精米歩合 六三%
日本酒度 十六
酸度 一、六
アルコール分 一五%
産地 兵庫県美方郡香美町



本日、一献の酒場は酒のムラ屋

今日の一献は創業一七三五年、約三〇〇年の歴史を持つ兵庫県の日本海側「香住鶴株式会社」さんのお酒です。原料米は、「山田錦」より大粒の「なだひかり」と「五百万石」を掛け合わせ開発された「兵庫北錦」を使用し、地元で古来より伝わる日本酒の製法「生酛系酒母」醸造している。「香住鶴山廃純米 天然乳酸菌発酵」を頂きます。そのお味は、スッキリとした飲み口であたりも良い、だが「山廃造り」らしさがしっかりと感じられる「酸」が現れる。お米の旨味も広がるバランスの取れた日本酒だ。食中酒としても万能感を感じてしまう、「肉・魚・菜」なんでも来い！

あわす肴

鳥ぶつとほうれん草の小鍋 八八〇円

食中酒として万能な「香住鶴山廃純米」の肴に迷い shouldn't! 今日には急に寒くなった、そんな日には小鍋が丁度良い。「鳥ぶつとほうれん草の小鍋」は、骨つきのぶつ切りから出る旨味に、臭みと暖かどれる「生姜」と「にんにく」で炊き込んでいる。タミンが取れる「ほうれん草」もたっぷり、体のことを考えた万能な小鍋だ。薬味には「柚子胡椒」、貝材がなくなれば「柚子胡椒」を旨出汁に溶かして酒の肴にもなる。やはり、ホームの「酒のムラ屋」の肴は心に沁みる暖かさがある。



酒 / 旭菊 WINS (福岡県)
肴 / おせち詰め合わせ

一献目

旭菊酒造
旭菊 WINS (ウインス)
原料米 山田錦
精米歩合 六〇%
日本酒度 十五
酸度 一、六
アルコール分 一五%
産地 福岡県久留米市三瀬町



あわす肴 おせち詰め合わせ

どんな料理にも、よく合いそうな「旭菊 WINS」には、正月の「おせち」がいに決まっている。そう思い、年末に市場の惣菜屋さんで仕入れた具材をお重に並べた。ざっくり紹介すれば、上から時計回りに「ローストビーフ」、自家製(唯一、煮ました)「煮染め・筍」、「八幡巻き」、「煮染め・人参・牛蒡」、京都の「千枚漬け」、「数の子」、宇和島の「紅白かまぼこ」、酒のムラ屋さんから「モロコ佃煮」、真ん中は「丹波の黒豆」の八品です。「旭菊 WINS」は冷やでも燗でもOK、肴に合わせ冷・燗を織り混ぜ楽しんで、良いお正月の祝いになった。

本日の一献は、ちよいと遅いですが、お正月用に頂いたお酒で家呑みです。頂いたお酒は、福岡県久留米の酒蔵、過去にも二度ほど紹介した「旭菊酒造」さんの「旭菊 WINS (ウインス)」です。この酒蔵のモットーは「流行に左右されない日本古来からの米の旨みにこだわり食事に合うお酒を造る」となかなか頑固な九州男児。その味わいは、スベック的には同蔵の「縹花」に似ているのだけど、コクと酸味がしっかりと表れ、深みのある旨味が口に広がる旨口の酒、イメージとしては「縹花」とは真逆に感じる。そして、このラベルには熱い思いが込められている。二〇一〇年に火災により蔵が全焼した、その窮地を救ってくれたのが取引先の酒販店・飲食店でした。旭菊を応援するために「手を取り合って」と造られたお酒、それがこの「旭菊 WINS」なのです。ラベル其調色の黄色は「ソフトバンク・ホークス」から来てるのかなと思いきや、阪神タイガースファンの常務さん「これは阪神の勝利を願った酒」とのことです。



酒 / 秋鹿 生酛純米 無濾過原酒 (大坂府)
肴 / 明石焼き

二献目

秋鹿酒造
秋鹿 生酛純米 無濾過原酒へのへのもへじ
原料米 自営田循環農法・雄町
精米歩合 七〇% 日本酒度 十八
酸度 二、八 アルコール分 一七%
産地 大坂府豊能郡能勢町



本日は家呑みで一献。いただくお酒は、大坂府最北端、「大坂の北海道?」「大阪のチベット?」と言われたりする豊能郡能勢町に蔵を持つ「秋鹿酒造」さんの「秋鹿 生酛純米・無濾過・原酒へのへのもへじ」です。この酒蔵は、世の中が健康志向や環境保護などに目覚める前から、無農薬の自営田でお米を作り原料米としてお酒を造っている、意識高系の蔵なのです。そのお米を使った証がラベルの「へのへもへじ」、なんで「へのへもへじ」かはわかりませんが(笑)。そのお味は、とにかく「原酒」のパワフルさを実感できる、その奥には「雄町」のパンチの効いた旨さが隠れているぞ。そして、無骨とも言える「酸」が爽やかかってくる、さすがは生酛仕込みです。そんな荒くれっぽさを、一年熟成によりバランスを取っている面白いお酒です。

あわす肴

明石焼き (出汁)

大阪のお酒には、大阪名物を肴にと考えた、思い浮かぶのは「たこ焼き」!?! いくらハンチ力がある日本酒と言えどそれは、少しミスマッチのような気がした。そこで、冷蔵庫を物色すると、頂き物の「明石焼き」があるではないか! よし! これだ。このままチンをして肴にするのも良いが、寒波が訪れたので出汁を作り暖かいたたく、いりこ、昆布で出汁をとり、酒の肴なので少々塩を多めに、醬沢に三つ葉を添える、どこから見ても明石で食べる「明石焼き」だ。心温まる手仕込みの酒と「明石焼き」の出汁で暖かい串刺しも家酒の一献だ。



酒 / 月の輪 山田錦80 (岩手県)
肴 / 鮭ハラス塩焼き

一献目

月の輪酒造店
月の輪 山田錦80
原料米 山田錦
精米歩合 八〇%
日本酒度 十六、九
酸度 一、六
アルコール分 一五%
産地 岩手県紫波郡紫波町



あわす肴

鮭ハラス塩焼き 六〇〇円

ツキノワといえはクマだ、クマといえは「鮭」だ(笑)! そんなつまらない理由から、本日の肴は「鮭ハラス塩焼き」。やさしいうま酒には、ちよいとパンチの効いた肴がよく合う。油の乗ったハラスは、丁度いい加減のしよっぱさで「月の輪」がすすむハラスで言うのは、魚の腹の部分を目指す言葉で、マグロでいえば「トロ」や「大トロ」部分、脂のりがよく、とろけるような柔らかく、贅沢な部位なのです。だから野生の熊さんは腹しか食べない、美味しいところをよく知っている。本日はムラ屋さんでリラククス、クマのようにがつつかずにこゆるりと時間が過ぎていく、ありがとう。



本日は、外呑みのホーム「酒のムラ屋」で一献。さて、いただくお酒は岩手県の名蔵! 「月の輪酒造店」さんの「月の輪 山田錦80」です。冷やで少し味見をした印象は、香り軽やかで優しい米の旨みを感じるが、物足りなさも感じた。だが、燗にすると、その印象が「変化するのだ」。コクと米の旨さが、一挙に倍増! その上に、キレもある呑み疲れしない、やさしい良いお酒です。それにしても斬新なラベルだ、源氏の旗印である日月「太陽と三日月」にちなんだデザイン。その「月と太陽」が「米」の形になっている、そして「つき」の「つ」も感じさせている。うーん、酒と同じで深い。

